

モチベーションの変化と試合での実力発揮度の関係について

The relationship between motivation and game performance

1K06B161

指導教員 主査 内田直先生

中野 大輔

副査 広瀬統一先生

．緒言

モチベーションは、動機づけと訳されている。わが国では心理学の専門分野で開発された評価法をスポーツ選手に適用することが多く、スポーツ選手が競技場面で必要とされる心理的能力を調べる評価法は皆無であった。こうした背景のもとで、徳永らが1983年頃から独自に、スポーツ選手の心理的競技能力の診断方法とトレーニング方法について研究を推進してきた。その結果、心理的競技能力の評価尺度としてシステム化することに成功した。本研究では、モチベーションが実力発揮に及ぼす影響について明らかにすることを目的に調査を行った。

．方法

早稲田大学ア式蹴球部に所属する、16名の学生を対象に実験を行った。期間は、約2ヶ月半で、5試合が対象である。実験には、DIPS-B1、DIPS-D2、DIPCA.3の3つの質問紙を用いた。実験全体の流れは、実験期間の前に被験者にDIPCA.3を行ってもらう。次に、1つの試合に関して、試合1週間前、試合1日前にDIPS-B1を行う。そして試合終了後にDIPS-D2を使って調査する。最後に、再びDIPCA.3を行う。

．結果

早慶サッカー定期戦のDIPS-B1・D2の結果を表3・表4で、その相関を図3で示した。DIPS-B1の評価平均が2.87、DIPS-D2の評価平均が1.37だった。天皇杯予選1戦目のDIPS-B1・D2の結果を表5・表6で、その相関を図4で示した。

DIPS-B1の評価平均が3、DIPS-D2の評価平均が3.28だった。天皇杯予選2戦目のDIPS-B1・D2の結果を表7・表8で、その相関を図5で示した。DIPS-B1の評価平均が3.5、DIPS-D2の評価平均が1.66だった。関東大学サッカーリーグ戦1戦目のDIPS-B1・D2の結果を表9・表10でその相関を図6で示した。DIPS-B1の評価平均が2.8、DIPS-D2の評価平均が2だった。関東大学サッカーリーグ戦2戦目のDIPS-B1・D2の結果を表11・表12で、その相関を図7で示した。DIPS-B1の評価平均が3.2、DIPS-D2の評価平均が2.6だった。DIPCA.3の結果を平均化したものが図9で、1回目の結果の合計平均は192.69であり、2回目の結果の合計平均が193.69であった。

．考察

モチベーションの変化と試合での実力発揮の関係性については、モチベーションが高い人ほど高い実力発揮ができることを表す正の相関が見られた。これによって、精神面の状態と、実際の競技力発揮の間に、一定レベルの関連があることが今日の結果から示唆された。DIPCA.3による心理的競技能力では、1回目と2回目で変化が見られるものもあった。実験は、DIPCA.3、DIPS-B1、DIPS-D2、DIPCA.3という順序である。本来、DIPS-B1、DIPS-D2の後で、メンタルトレーニングを行うことで効果が得られるとされている。今回、メンタルトレーニングは行っていない。したがって、メンタルトレーニングを入れた流れで今回の実験を行うことで、さらに良い結果が見られると思われる。